

## 令和2年度学校評価について

令和2年10月5日

本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上</li> <li>2 自立と社会参加を促す教育活動の推進</li> <li>3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり</li> <li>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進</li> <li>5 センターの機能の充実</li> </ol>	
項目	重点目標	具体的方策	中間評価
小学部	児童の病気や障害の状態及び学習の進度に応じて学習の目標や内容を設定し、児童が自信をもち、達成感を味わいながら、笑顔で学校生活を送ることができるようにします。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童・保護者及び医療関係者等との相談をもとに、児童の学習の進度や特性を把握します。</li> <li>2 個々の実態に応じた学習目標・内容を設定し、分かりやすく効果的な学習方法を工夫します。</li> <li>3 学習の目標を明確にし、児童とともに学習の成果を振り返ることで、自己の成長が実感できるようにし、児童が主体的に学習に取り組めるように支援します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育相談や入院カンファレンスにおいて、個々の児童の病気の状態や配慮事項、本人及び保護者の願い等を共有し、個別の教育支援計画を作成しています。また、前籍校担任や保護者と連絡を取り合うことで学習のねらいをより明確にし、学習内容の設定や指導方法の工夫を行っています。</li> <li>2 道徳や生活、外国語の授業で、本校とベッドサイド学級や施設内学級を同時双方向通信でつないだ授業を行いました。対話によって新たな気付きを得たり、考えを深めたりできました。他の授業においても、学習のねらいに応じて取り入れていきます。</li> </ol>
中学部	基礎的・基本的な学力の習得を確実にを行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。</li> <li>2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向での授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。</li> <li>3 集団活動の中に意見を交わす課題を設け、対話的、協同的な活動を通じた合意形成の経験を多くの生徒ができるよう支援します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒個々の学習状況やニーズを把握し、個別指導や学習教室の変更など、状況に応じた対応、工夫を心がけています。</li> <li>2 部集会や道徳など、ICT機器を活用した同時双方向通信での授業により、集団で学び合う環境づくりの充実に努めています。</li> </ol>
高等部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。</li> <li>2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 登校できない生徒に対し、同時双方向型通信を活用して、健康状況等の把握を行う。</li> <li>2 生徒の達成感や自己肯定感の向上につなげるため、個々の学習状況に応じた分かりやすい授業を行います。</li> <li>3 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。</li> <li>4 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなど、人との関わり方を学べるように支援・指導します。</li> <li>5 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員全員が生徒個々の実態を把握し、幅広い視野、長期的な展望をもって適切な指導ができるように情報の共有に努めています。</li> <li>2 同時双方向型通信を利用し、登校できない生徒へ授業を配信し、自宅でも授業が受けられるようにしています。</li> <li>3 学習指導要領の改訂に向けて、各教科で改訂の趣旨を整理し、令和4年度からの教育課程の編成に向けた準備をしています。</li> <li>4 学校生活全般で、職員が積極的に生徒に言葉かけをし、コミュニケーションの充実を図り、生徒が人との関わりを学べるように支援しています。</li> <li>5 生徒は実態に応じた役割を担い、行事等で活躍することで、達成感や充実感を味わい、精神的な成長の一助となっています。</li> </ol>
施設内教育	名大藤田中京 児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。</li> <li>2 児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症対策やベッドサイド授業の柔軟な対応など、各施設の状況に合わせて、学習保障に努めています。</li> <li>2 各施設の高校生の在籍を調べ、高校生活等に関する聞き取りを進めています。</li> </ol>
訪問教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の一人一人の実態に応じた授業を実施します。</li> <li>2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。</li> <li>2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。</li> <li>3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個々の児童生徒の実態に応じた方法や内容を考え授業を進めています。また、課題の調整が必要などあるため、授業改善を進めています。</li> <li>2 担当者間で、児童生徒の情報を共有して支援に努めています。しかしながら、児童生徒の状況が変化することもあるので、その変化に対応した支援を検討していきます。</li> <li>3 在籍児童生徒の多い病棟の主治医等の関係者と、定期的に情報交換会をもつことができような仕組みができつつあります。引き続き、関係機関との連携に努めていきます。</li> </ol>
総務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 魅力ある教育活動の情報発信に努めます。</li> <li>2 保護者同士や学校とのつながりを感じられるPTA活動を進めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校、施設内、訪問教育と連携を図り、学校だより・校内掲示等を利用して、活動や取組について具体的に発信していきます。</li> <li>2 保護者と連携し、社会の状況にも対応しながらPTA活動や研修会の内容を検討していきます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校だより、校内掲示では、学校生活の様子が伝わるよう写真やレイアウト、コメントなどを工夫しています。ICT機器を活用したりリモートでの授業の様子など、今年度の学校生活が伝わる内容を取り上げ、掲示等の作成を進めています。</li> <li>2 新型コロナ感染拡大防止のため、健康面、衛生面に配慮した形でPTA活動を進めています。PTA研修会「卒業生のお話を聞く会」では、会場に参加するだけでなく、web会議ツール「Zoom」を用いたリモートでの参加も設定し、希望する方が参加しやすい研修会となるよう進めました。</li> </ol>
教務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 2学期制の実施に伴い、授業、儀式等を本校児童生徒の実態に応じた内容で実施します。</li> <li>2 新学習指導要領に沿った、主体的対話的で深い学びを目指し、指導力の向上を図ります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画の見直しを行い、評価の方法や、評価の結果を授業へどう生かすかを担当者で話し合います。</li> <li>2 始業式終業式の儀式的回数を減らし、授業時間を確保し、内容の見直しを行います。</li> <li>3 各部、各教科における授業改善を心がけ、指導力向上のための研修機会を設けます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校休業に対応した授業計画の見直しを行い、学習保障のため同時双方向型通信やオンデマンド教材の活用を進めました。</li> <li>2 2期制に伴う評価の見直しや儀式の内容について計画を行い実施しました。</li> <li>3 新学習指導要領に沿った指導や評価について、研修を計画し実施しています。</li> </ol>

自立活動	3 児童生徒が自己の自立について考えると同時に、自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。	4 児童生徒が自己の心身の状態を踏まえ、自己理解を進めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。	4 ワークシートを活用し、児童生徒が自らの活動の目標を考え、活動内容を決めて実施しています。活動内容や成果をを発表する場を設定します。前期の自立活動の実践をまとめ、自立活動だよりとして発信する予定です
生徒指導部	児童生徒の防災に対する意識を高めるとともに、安全・安心に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。	1 避難訓練や定期的にシェイクアウト訓練を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 2 不審者対応訓練を実施し、緊急対応マニュアルの見直しをします。 3 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	1 消火器の使い方や火事が起こったときの対応が学べるよう作成した動画を視聴したり、防災ヘルメットの装着訓練を丁寧に行ったりするなど、避難訓練での防災学習を工夫しました。児童生徒が校内にある消火器を自主的に確認するなど、防災への意識が高まっています。 2 コロナウイルス感染症拡大予防のため、警察署員を講師に招いて行う訓練は中止しました。緊急対応マニュアルは、継続的に見直しを行っています。 3 各部会で児童生徒の情報交換を行ったり、「心のアンケート」の結果を職員間で情報共有したりすることで、いじめの早期発見に努めています。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます	1 児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。	1 「3密」を避けるため、心肺蘇生法、AEDの扱い、緊急時対応のシミュレーション等が紙上伝達のみしか実施できていない状況です。これらが、実際の場面でスムーズに対応できるよう、今年度、本校に赴任した職員を中心に、マニュアルの再確認ができることよと感じています。朝の職員打ち合わせにて、熱中症警戒のお知らせを随時行ったことで、各職員の意識が高まり、児童生徒に水分補給、涼しい教室で活動する等、十分な配慮を行うことができました。 2 医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 3 感染症対策として、登下校時の検温の実施、手洗いの励行及びマスクの着用の依頼、各教室への消毒液の配布及び毎日の消毒拭き取り作業の計画及び実施、密にならないような給食時の座席配置、体調不良者が休養できる部屋の確保等、マニュアルを作成し、管理職や他の分掌と連携を取りながら対応しました。
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。児童生徒・保護者のニーズを把握しICTを活用した情報を提供することで、進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、多様な進学・就労への個別支援が充実するよう努めます。 3 希望する進路先・居住地関係機関に対して児童生徒の実態について情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1 中学部では児童生徒が進路選択をするための情報をタブレットパソコンで作成し、本校の生徒だけでなく施設や訪問の生徒にも同じ情報を提供できるよう努めました。 高等部では卒業後の進路選択としての詳細な情報をまとめて授業内で説明し、進路決定の支援に役立てました。 2 中学部では、高校見学等の最新情報の提供を心掛けました。高等部では、居住地域の相談支援センターと連絡を密にとり、就労への支援の充実に努めました。 3 希望の進学先、進路先に積極的に連絡を取り、オンラインでの質問会や施設見学を依頼して、生徒と直接会話する機会を設定し生徒理解を深めていただく機会としました。
教育支援部	1 児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実に努めます。 2 各関係機関との情報の共有化、連携の充実に努め、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	1 各教育形態で行われるカンファレンスについて、その意義の確認や定義を見直し、カンファレンスの在り方について検討を進めることで、児童生徒の教育的ニーズや教育課題に対応する方策を共有し、教職員の資質の向上を図ります。 2 医療、教育、地域との「連携の流れ」について見直しや確認を行い、スムーズな連携を一層推進するとともに、次年度開催予定のセミナーや研修会の企画を行います。	1 カンファレンス等の見直しについては、教育形態ごと連携の在り方(種類、目的、主な参加者等)について見直し、現状にあった内容へと変更しました。今後は、連携の在り方の表を完成させ、カンファレンスの記録方法の改善を図っていきます。 2 新型コロナウイルス感染症の拡大により、夏の研修会が中止となったため、センター的機能の一環としてホームページにWeb相談コーナーを1月末まで開設し、地域の学校に周知しました。相談内容によってはメールのほか、電話相談や同時双方向型通信による相談なども適宜行っていきます。
教育情報部	1 児童生徒がICT機器を活用できる環境を整えます。 2 職員の業務の効率化や職務のスリム化により、授業準備等の児童生徒と向き合う時間の充実に努めます。	1 コンピュータ室のパソコンやタブレット端末等の利用環境を児童生徒の実態に応じて見直し、すべての教室でICT機器を効率的に活用できるように環境整備を進めます。 2 コンテンツの拡充及び校内の研修により指導力の向上を目指します。 3 ネットワークやグループウェア(情報共有システム)の活用により職員間の効率的な情報共有を進めます。	1 コンピュータ室のレイアウトを変更しました。教師が授業をしやすく、児童生徒が学習しやすいものになりました。また、児童生徒同士が向かい合わないよう配慮しました。 2 コロナウイルスによる臨時休業に伴い、Zoomの新規アカウント作成、動画配信システムの整備、校内グループウェアの整備を行うなど、家庭と学校をつなぐ環境を整えました。
学校関係者評価を実施する主な評価項目			1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか ・提案・交渉・合意形成型アプローチ、ジェントルティーチングを進められたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実に努めたか

